YAMAGATA★IBUKI Vol.124

山形いぶき

YNA 夢・ナーシング・愛

TOPICS

- 会長・支部長年頭あいさつ
- 年男・年女今年の抱負
- 三職能だより
- 支部活動
- ナースセンターだより
- 健康お役立ち情報

平成25年度会員数（1/6現在）

保健師	397
助産師	365
看護師	6,378
准看護師	249
計	7,389

Photo：啓翁桜

平成26年度「日本看護協会通常総会・職能別交流集会」
- 期日：**平成26年6月10日（火）～12日（木）**
- 場所：愛知県　日本ガイシホール 他

平成26年度「山形県看護協会通常総会並びに職能研修会」
- 期日：**平成26年6月19日（木）**
- 場所：山形県看護協会会館・看護研修センター 3階第1研修室 他

山形県看護協会ホームページ ▼

http://www.nurse-yamagata.or.jp

県ホームページ「すまいる山形暮らし情報」からもリンクできます。

▼ 山形県看護協会　検索

機種によってはアクセスできない場合があります

会長あいさつ

平成26年の年頭にあたって

公益社団法人山形県看護協会 会長　川 村 良 子

職員一同、今年もよろしくお願いします。

平成26年の新たな年を迎え、皆さまには保健・医療・福祉・在宅・教育の現場で、お力を注いでいただいていることに心より感謝申し上げます。

また、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災と原発問題により、山形に避難されている方々、そして被災されました方々と被災地の復興に向け、私たち隣に住む県民として、継続して力を注いでいかなければならないと考えております。

更に昨年発生しました多くの自然災害や人的災害を忘れることなく、被災された方々に対し何ができるか、何をなすべきかを私たちは考えていかなければならないと思っております。

さて、山形県看護協会は6つの協会立訪問看護ステーション、3つの居宅介護支援事業所、4支部（平成25年4月より6支部から4支部へ移行）とともに、平成25年4月1日より社団法人から公益社団法人へと移行いたしました。会員の皆さまには、公益社団法人の役割を良く理解していただくべく、広報誌「山形いぶき」やホームページ等を通して、定款、基本姿勢、事業等についてお伝えしているところです。

特に、定款の第3条の目的「本会は公益社団法人日本看護協会と連携し、保健師、助産師、看護師、准看護師が、教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図るとともに医療の担い手である看護職が生涯を通し安心して働き続けられる環境づくりを推進し、併せて人々のニーズに応える看護領域の開発・展開を図ることにより、県民の健康な生活の実現とともに、地域医療の推進に寄与することを目的とする。」ことに向け、会員の皆さまとともに山形県看護協会に所属する職員は、この目的及び第4条の事業をよく周知し活動を行っていかなければならないと考えます。

現在、山形県看護協会では、平成25年度の評価を行いながら、平成26年度の重点事業案はじめ事業計画案及び予算案の作成とともに、今年の10月2日・3日に山形テルサで開催されます“日本看護学会学術集会―在宅看護―”に向け、日本看護協会のご指導をうけながら取り組んでいるところです。また、山形県看護協会訪問看護会館建設に関しては、昨年末の12月27日に地鎮祭（写真）を行ないました。着工は資材の調達との関係から2月からとなります。今後とも経過をご報告させていただきますので、会員の皆さまには機会を見つけご覧いただければ有難く思います。

また、昨年は、オリンピック・パラリンピックが2020年に東京で開催されることが決定し、日本中が嬉しさに湧いた年であった様に思います。今年は冬のオリンピックが開催され、多くの選手の皆さまの頑張る姿から元気をいただけるのではと期待しているところです。

最後に、会員の皆さまにとりまして、今年も真摯な気持ちで仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に心がけ、楽しく充実した一日一日であります様にと願っております。

山形県看護協会は、皆さま方が気軽に活用していただけるために今年も活動していきますので、山形県ナースセンターともども宜しくお願い致します。

厳かに「地鎮祭」を施行

理事会報告

平成25年12月20日（金）　午前　第5回理事会

主な審議事項

1．公益社団法人山形県看護協会支部規則（案）について
・・・・・・次回再提案
2．「まちの保健室」事業に関する提案について　＜承認＞
3．平成26年度山形県看護協会重点事業（案）について
・・・・・・次回再提案
4．平成26年度山形県看護協会教育計画（案）について＜承認＞
5．公益社団法人山形県看護協会会館・看護研修センター
使用料金等の改正の提案　＜承認＞

11月末～1月の山形県看護協会事業実施状況

平成25年11月12日（火）
支部長会議、4支部会計担当役員との打合せ
平成25年11月13日（水）
認定看護管理者セカンドレベル教育課程開講式
平成25年11月20日（水）
米沢市万世コミュニティーセンター「まちの保健室」
平成25年11月21日（木）
山形市避難者支援センター「まちの保健室」
助産師出向支援モデル事業実施協議会
平成25年11月26日（火）
認定看護管理者教育機関視察審査受審
平成25年12月12日（木）
山形市避難者支援センター「まちの保健室」
平成25年12月18日（水）
米沢市万世コミュニティーセンター「まちの保健室」
平成25年12月21日（土）
山形県における助産師出向支援モデル事業実施に関する会議
平成26年度教育計画に関する懇談会
平成25年12月27日（金）
山形県看護協会訪問看護会館建設地鎮祭

支部長の新年あいさつ

柔軟に躍動する

山形支部長　田代 久男

新年のご挨拶を申し上げます。世界的異常気象により社会的にも大きな現象と混乱をもたらした昨年でしたが、今年は税制体制の見直しによる経済不安が続いており、社会保障費の動向も気になるところです。山形支部は県内会員の半数を占める大所帯となり、支部の役割拡大を踏まえ、「地域とともに築く看護」の当初のスローガンを想起し、新たな価値創出で信頼に応えるべく事業内容を再考する過渡期を迎えました。60年に一度の甲馬。馬は暗闇でも目が利き、その視野は360度に及ぶと聞きます。「暴れ馬」から落馬しないよう、従順で柔軟性をもち、変化に臆することなく躍動する一年にしたいものです。住み慣れたところでその人らしく働き続けられるよう地道な行動を心がけ、確実に前進してまいりますので本年もご指導ご協力の程宜しくお願い致します。

絆

最北支部長　落合 加代

新年あけましておめでとうございます。

昨年度から公益法人としての活動となり、支部として地域住民の方たちとの関わりの大切さが、年間活動を通し更に強く感じています。地域の方の必要な情報やニーズは何か、という情報をキャッチし、三職能が共に意見交換の中から協同し、活動していく必要があります。その為に、「まちの保健室」での交流の場などからPRや情報提供を行い、地域の方から求められる支部活動が必要になると思います。今後更に、地域の方と三職能がお互いに「絆（ネットワーク）」を大切にし、今年度も情報発信に努めながら、支部活動を担っていきたいと思いますので、皆様方のご協力宜しくお願いいたします。

拡がれ看護の輪

庄内支部長　叶野 真弓

新年あけましておめでとうございます。

新たに庄内支部としての活動がスタートし半年が過ぎました。前酒田支部長さんと一緒にどうしたらより良い運営ができるかなど真剣に語り合った時間を懐かしく思い出しております。

おかげさまで、スタッフ皆さんのチームワークと、送り出してくださっている各施設の方々、そして会員の皆さまの力の結集で、支部研修会や「まちの保健室」など運営することができました。今年度2回の研修会では、出席者数も予想を上回る状況に加え、満足度も高く参加された方々の笑顔や喜びの声をいただくことができました。ご協力、ご支援を衷心より感謝申し上げます。

26年度は、庄内支部として本格稼働の年となります。会員や市民のニーズに応えられるような活動に向け、歩んでいかなければと決意を新たにしております。

新年に向けて

置賜支部長　工藤 真紀子

置賜地区の支部長の任を受け、あっという間の7ヶ月でした。山形県のこともよくわからず、看護協会や支部の方々にも多くのご迷惑をかけながら、皆さんの温かいサポートのおかげで少しずつ役割をはたせているのかなと思っております。今年は午年、競走馬のようにスピーディには行きませんが、看護協会の理念に基づき、置賜支部の特徴を出しながらメンバー全員で今年度の事業をすすめていければと思います。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

協会立訪問看護ステーション活動

医療と介護の連携を考える多職種意見交換会（平成25年度山形県在宅医療推進モデル事業）

……どこで看取るかから、いかに看取るかへ……

訪問看護ステーションべにばな所長　徳田 喜恵子

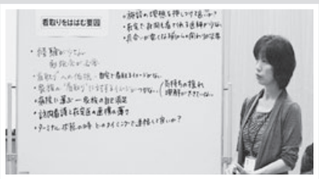
去る10月5日、協会立訪問看護ステーション（べにばな、やまがた、小白川）主催にて、看護協会会館・看護研修センター3階第1研修室にて、標記研修会を開催いたしました。

昨年度に引き続き、今年度も地域看取りに焦点を当て、今後の超高齢多死社会に向け、「最後まで地域でその人らしく生き切る支援」をキーワードに、20グループで活発な意見交換が行われました。

集まった多職種は医師、看護師、薬剤師、介護職員、ケアマネジャーなど121名。それぞれの現状の情報交換とともに、病院、自宅、施設どこであってもより質の高い看取りをしていく為の促進要因などを話し合い、「死や看取りに対する地域住民への啓発、看取りに関わるスタッフへの系統的研修の必要性、病院から地域へのタイムリーな連携、制度や体制の充実、そして最も重要なのは関わる多職種がお互いを理解し連携すること」など、貴重な意見をまとめる事ができました。

医療と介護両面に接点を持つ訪問看護がこのような連携の場を提供したり、意見発信をしていくことが、ますます重要になる中第1歩を踏み出せたかと感じています。

ご協力いただきました関係機関の皆さま、大変ありがとうございました。



なごやかな雰囲気の中、地域多職種が活発に意見交換

保健師 職能だより

平成２５年度保健師職能研修会

開催日：平成25年9月27日(金)
10:00～16:00
参加者：26名
テーマ：「保健活動パワーアップのためのミーティング」

内　容：講演　保健師の歴史に学ぶ
～活き活きとした保健師活動のため～
講師：木村　哲也　氏(歴史･民俗学者)

活動事例発表　先輩保健師に学ぶ
～地域と共に歩む力を取り戻すために～
発表者：山形県看護協会　鈴木　郁子 氏
鶴岡市地域包括支援センター　叶野　真弓 氏

情報交換 (3グループ編成で実施)

木村氏より保健師の歴史に学ぶ

先輩保健師
叶野真弓氏

先輩保健師
鈴木郁子氏

《参加者からの声》

- **講　演**：駐在保健師の歴史はとてもわかりやすく、期待以上の講演だった。保健師活動の歴史をふりかえると、今後の課題がみえてきた。木村先生の本に記載されていない内容もきけてよかった。保健師活動指針を熟読したい、勉強不足でした。
- **活動事例発表**：身近な先輩の熱い思いが伝わり、元気になった。先輩の体験からの学びは励みになり、エールをもらった。他職種との連携・保健師の原点等大切なことを再確認した。
- **情報交換**：業務の悩みを共有できてよかった。他市町村の方と情報交換する大切さを痛感した。若い保健師の悩みにベテラン保健師がアドバイスし、よい機会になった。

保健師職能委員会の動きや情報発信

<その1>

日本看護協会から今年度中に新たな保健師活動指針の本質を読み解き、保健師の体制確保･適正配置を進める攻略がわかる『保健師活動強化･体制確保のための方略ガイド(仮)』がだされる予定です。「保健師が、今なぜここをやるべきなのか」をわかりやすく読み解き、その攻略をつかむことができるガイドラインです。ご期待ください。

<その2>

昨年度から、山形県保健師長会が「山形県の保健師活動の歩み」編纂委員会を立ち上げて活動中ですが、12月7日に開催された「山形県の保健師活動の歩み」編纂会議から保健師職能委員長･副委員長も出席し編纂の作業にあたっています。

助産師 職能だより

研修会報告

「先輩助産師の実践から学ぶ　一産婦に寄り添うお産に向けて―」

平成25年11月9日(土)　参加者55名

助産院での実践を語る矢島氏

分娩介助の演習風景

今回は、「先輩助産師の実践から学ぶ一産婦に寄り添うお産に向けて一」と題し、東京都国分寺市から矢島助産院の矢島床子先生をはじめ、平出美栄子さんらスタッフ3名をお招きして研修を行い、新人から超ベテランまで多数の参加をいただきました。

午前中の講義では、矢島先生と平出先生から矢島助産所で行われている日々の風景などを映像で紹介していただき、さらに、楽しくそしてパワフルに実施している助産業務や助産院と地域との連携について幅広い実践の様子を伺いました。また、昼食は講師と参加者が一緒にとり、各参加者の日々の思いを聞いたりアドバイスをもらったり楽しい時間を過ごす事ができました。

午後の演習では、矢島助産院での実際の分娩介助を学び、経験年数のグループに分かれて実践し丁寧な指導を頂きました。最後には、お産の感想文や矢島助産院の方からのメッセージを伺い、参加者は助産の魂を揺さぶられ、笑いあり涙あり、助産に対する思いを新たにし、皆イキイキとした表情で大満足のうちに終了しました。研修後のアンケートでは、日々の関わりに活かせる学びが多くあったと好評でした。また、今後の研修において、日々の助産業務で実践できる技術研修を希望する意見も多くあり、次回の研修企画につなげていきたいと考えています。

２人ペアで実践！

看護師 職能Ⅰ(病院領域)だより

11月2日（土）研修会を開催しました。

「現場が主体的に考える働き続けられる職場づくり」

―夜勤・交代制勤務に関するガイドラインを参考とした勤務環境改善―

グループでの意見・情報交換

勤務環境改善の事例報告

日本看護協会の常任理事、松月みどり先生を講師にお迎えして研修会を開催致しました。午前の講演では、働き続けられる職場づくりに向けて、WLB（仕事と生活の調和）の支援策のポイント、「夜勤･交代制勤務に関するガイドライン」の活用のポイント等について、大変分かり易いお話をして頂きました。各職場において、生涯を通し多様性を認め、お互い様意識を醸成させる事が大事であると感じました。参加者からは今後の取り組みのポイントとヒントをもらえた等の感想がありました。

また、日本看護協会が2014年よりスタートする労働と看護の質向上のためのデータベース事業「DiNQL」についての説明がありました。今後の展開に注目していきましょう。

＜午後の内容＞

1．勤務環境改善の事例報告
　1）鶴岡協立リハビリテーション病院
　「変則２交代制勤務の試み」佐藤あさみ氏
　2）公立置賜南陽病院
　「看護補助者の夜勤導入の取り組み」安達久美子氏
2．グループワーク

事例報告では、質問が多くだされ活発な意見交換が行われました。それぞれの病院でも工夫していこうという前向きな様子が伺えました。

グループワークでは現状を出し合い、他の病院のいいところなど、意見･情報交換を行う事ができました。参加者からは他病院の現状が聞けてよかった、2交代勤務を前向きに考えて見たいと思った、などの感想がありました。

看護師 職能Ⅱ(介護･福祉･在宅領域)だより

H25年9月28日　看護師職能委員会Ⅱ主催研修開催

山形県看護協会の看護師職能委員会Ⅱとして初めて企画した研修を、山形県老人福祉施設協議会、山形県老人保健施設協会の共催で開催しました。講師に滋賀県済生会地域ケアセンターセンター長九里美和子氏をお迎えし、「介護施設の特徴と看護の役割～介護リーダーとしての求められるもの～」というテーマで研修を実施しました。

午前中は介護施設での看護職の役割と課題を講師の実践を踏まえた講義、午後のグループワークは、「本人や家族が穏やかに看取られ、看取れる看取りケアを行うためには、私達看護リーダーは明日から何を始めましょうか」のテーマで活発な意見交換を行いました。

参加者は70名と定員を超える人数が集まり、内、施設長6名、介護員11名という状況でした。下記に、参加者の声を紹介します。

スタートから2年目。まだまだ会員数も少ない状況ですが、現場から意見を発信していただき介護領域で働く私たち看護師が、安心して働き続けられる環境作りと専門性に基づいた看護の質の向上のために看護職能委員会は活動をしていきます。

重要なお知らせです！

日本看護学会「在宅看護」学術集会を山形県看護協会が担当して開催

期　日：10月2日（木）3日（金）
場　所：山形テルサ
テーマ：“つなげよう　ひろげよう　在宅看護”

★3月7日より演題募集、
6月19日より事前参加登録が始まります。

Vol.124

2014年 年男 年女 今年の抱負

今年の抱負

国立病院機構山形病院　**阿部 美咲**

看護師になり、２年目が終わろうとしています。今年はプリセプターとして責任の重い役割を担い、慌ただしい１年になると感じています。私のプリセプターさんは困っている時いつも声をかけてくれて、相談にのってくれ、共感して背中を押してくれたことが私にとって安心ややる気に繋がりました。自分の考えだけを押しつけるのではなく、プリセプティの気持ちや考えを汲み取り、一緒に目標に向かって達成できるように、共に学び・成長できるような1年にしたいと思います。

話（わ）を大切に

東北中央病院　**金内 優里枝**

私は、脊椎疾患の周手術期病棟に勤務しています。
今年の抱負は、コミュニケーションを大切にすることです。先生方や先輩方とのコミュニケーションを密に行い、昨年よりも観察力を上げられるよう努力していきたいと思います。

また、患者様の変化に気づき、温かい手で患者様が必要としている看護を提供できるよう努めていきたいと思います。今年も楽しみながら仕事をガンバります。

年女をむかえて

山形県庄内保健所　**渡曾 洋子**

またまた干支が巡ってきました。あるサイトを見たところ「丙午（ひのえうま）生まれの女性というのは、干支の中で、最も、最高に、陽が強い生まれ、抑える力（陰）を最も持ち合わせていない、心の持ち主」とありました。

抑える力を最も持ち合せていないにも関わらず、昨年は周りの人に助けられ、何とか過ごすことができました。今年は多くの人に支えていただきながら、支える存在になれるように自分らしく日々努力したいと思います。

今年の抱負

最上町立最上病院　**武田 志津佳**

最上町立最上病院に就職して早いもので三年が経とうとしています。勤務当初は不安もありましたが、先輩方に支えられ楽しく仕事を続けることが出来ています。

まだまだ未熟なため、年女である今年は今まで以上に知識と技術向上に努力し、患者さんに寄り添った看護を行っていけるよう、一生懸命がんばっていきたいと思います。

楽しく働けた 年月に感謝して

小白川至誠堂病院　**津川 敦子**

私は、今年還暦を迎えます。

39年という長い年月をこの病院で働いて来れたのは、人間関係に躓（つまず）いた時や壊れかけた時、いつも支えてくれた仲間がいて家族がいてくれた。そんな古き良き時代のことを、これからの時代を担う後輩達に伝えていけたらいいなと思います。

先日亡くなられたマンデラ元大統領が言っていた言葉に、「人は、生まれてから憎しみを学ぶ、それなら愛することを学ぶ方が容易い」と。私もその精神で生きていきたいと思います。

戊午に生まれて ～新年の抱負～

みゆき会病院　**真木　珠**

あけましておめでとうございます。私は、戊午といって働く馬を意味する年に生まれました。看護職として18年目を迎え、多くの人に支えられながら、今も新人時代と変わらず、情熱を持って仕事に取り組んでいます。患者さんの笑顔、元気になっていく姿を見る度、看護師が私にとって天職であることを意識させてくれます。働き馬の名を汚さぬよう、一生懸命この職を全うし、仲間達と共に患者さんのため邁進したいと思います。

新年の抱負について

鶴岡協立病院　**佐々木 ひとみ**

看護師になって今年で３年目になります。分からないことばかりだった１年目から、たくさんの方々に支えられて今日まで来ました。支えてくださった方々への「感謝の気持ち」を忘れず、これからも精進していきたいと思います。また、看護の現場は毎日が学びです。たくさんのことを学べるように、今一度気持ちを新たに、たくさんのことにチャレンジしていきたいと思います。

馬のように 蹴りあがる年に…

小国町立病院　**高橋 ルリ子**

小国に来て12年が過ぎました。仕事、家事、育児で慌ただしい毎日を過ごしていますが、今は子ども達との時間を楽しんでいます。これからの季節は家族でスキーに行く予定ですが、私以外はスノーボードをするので、私も今年はやってみたい…とひそかに思っています。怪我には気をつけて、健康第一、そして色々なことに挑戦できる年になればいいと思います。

年頭によせて

吉岡病院　**吉田 菊美**

明けましておめでとうございます。

昨年は看護協会で職能委員として働きやすい職場環境や、残業0の日を実施出来る様にと活動しました。この貴重な体験をもとに、午の様に「跳躍」は出来ないと思いますが体調管理をしっかり行い、仕事も家庭も両立し日々頑張っていきたいと思います。

何度目の年女かは、ご想像におまかせします。

今年の抱負

西川町立病院　**佐藤　恵**

新年明けましておめでとうございます。看護師として働くようになり15年目になります。患者さんの方々の関わりだけでなく、たくさんの人々との出会いがあるからこそ、今の私がいるのだと実感しています。今年もたくさんの人々との出会いを大切にし、また知識や技術にも磨きをかけ、仕事も家庭も両立させ頑張っていきたいと思います。

馬には乗ってみよ 人には添うてみよ

白鷹町立病院　**清野 文恵**

“馬には乗ってみよ人には添うてみよ”とは、何事も経験してみなくては本当のところはわからないのだから、やりもしないで批判したり評価したりするべきではないということ。

これは最近見つけたことわざなのですが、なかなかいいことというなぁ。

アラフォーのウマ年女にはぴったりなお言葉ではないかしら。

できる限りの経験を積む。これはきっと大事なことなのだろうなぁ。

2014年は家庭でも仕事でも、様々な経験をさせてもらおう。

３回目の年男

三友堂リハビリテーションセンター　**新野 邦夫**

早いもので気付けば今年は３回目の年男を迎えます。私自身まだ看護師としての歴は浅くまだ４年目です。やっと先輩方にもついていけるようになってきたと感じる所もありつつ、自分自身の未熟さを感じるところもあり、自分の技術や今までの経験を振り返る時期なのだろうと感じています。「驕（おご）らず、謙虚に、確実に」を合言葉に今年も頑張って行きたいと思います。

★山形支部の活動状況

山形支部長　田代 久男
教育委員　山口咲奈枝

講師　細谷亮太先生

第2回研修会

今年度、旧山形支部と東西村山支部が統合し、「公益社団法人山形県看護協会　山形支部」として始動しました。支部活動の大きな柱には、「研修会」と「まちの保健室」事業があります。第1回研修会は、はじめに山形県看護協会川村良子会長より公益法人としての山形県看護協会の役割についてご講話いただきました。また、済生会山形済生病院管理栄養士の岡田まさえ先生から、「よみがえりのレシピから見る山形の食の魅力―食を通して日頃の生活を見直し、元気ときれいを手に入れる！―」と題してご講演いただきました。参加者からは「山形の食の魅力を再発見した」、「普段の食事の大切さを実感した」などの意見が寄せられ、研修会の主旨としていた自身の活力の源として食を見直す良い機会になったと考えます。第2回研修会は、聖路加国際病院小児総合医療センター長の細谷亮太先生から、「子どもの心と体」と題してご講演いただきました。子ども、親、家族、医療者、様々な視点で真摯に命と向き合い「感じる」ことの大切さを実感する講演でした。

まちの保健室

「まちの保健室」事業は総合福祉センター（山形市）と天童最上川温泉ゆぴあで健康相談、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定などを実施しました。「まちの保健室」事業は、地域住民の方と直接触れ合うことができる活動です。次年度も多くの方に参加していただき、地域住民の健康ニーズに応じた活動となるよう、企画を充実させていきたいと思います。

山形県における助産師出向支援モデル事業の進捗状況

常任理事　大竹 久子

前回の「山形いぶき」123号で、今年度の新たな事業として、日本看護協会の「助産師出向支援モデル事業」に取り組むお知らせをしましたが、今回は進捗状況の報告をいたします。

この事業を実施するにあたり協議会を設置し、11月21日（木）「第1回山形県助産師出向支援モデル事業実施協議会」を開催しました。会議の構成員として、山形県医師会常任理事の吉岡氏、山形県産婦人科医会長の金杉氏、山形県助産師会長の齋藤氏、山形県立保健医療大学教授の遠藤氏、山形県病院事業局長の船田氏、山形県健康福祉部地域医療対策課長の渡邊氏、米沢市立病院副院長兼看護部長の井上氏にお願いをし、本事業の実施について協議をしました。委員の方々より、県内の安全・安心な出産環境の整備する上で、助産師偏在の是正、助産師の実践能力向上、看護学生の実習場の確保の課題解決を図る必要があり、その一つの方法として出向という仕組みを推進していこうとの意見をいただきました。また、出向支援コーディネイターとして、済生会山形済生病院看護部長の高橋氏が選出されました。

さらには、平成24年度の日本看護協会の「助産師の出向に関する調査」において当県の分娩取扱病院では出向スタイルの人材育成・人事交流を実施しているところがなかったことから、事業実施に当たり、分娩取扱病院・診療所の看護管理者や助産師に事業内容の理解を得た上でないと推進できないと考え、10月31日（木）と12月21日（土）に「山形県における助産師出向支援モデル事業実施に関する会議」を開催しました。2回の会議では、各病院の助産師の就業状況、業務内容などの現状と課題について情報交換をし、県内の施設間での出向の可能性についても意見交換を行いました。

現在は、出向できる病院と出向を受け入れられる病院の間で具体的な協議に入る準備状態という状況ですので、契約実現に向けてコーディネーターと共に支援をしていきたいと考えています。また、1月23日（木）には日本看護協会において「助産師出向支援モデル事業」合同報告会が開催されますので、これまでの経過を報告する予定です。

お知らせ

性教育実践者（ネットワーク会員）を募集しています。―緒に活動してみませんか？

性の健康を支援する委員会では、山形県の性の健康を守るために出前講座を行っています。昨年は小・中・高校合わせて29件（2,836名）に出前講座を行いました。

現在のネットワーク会員は50名です。出前講座に興味がある方、まずは見学から始めてみませんか？会員登録お待ちしています。

出前授業の様子

山形県看護研究学会～繋げる学会～

日本精神科看護技術協会山形県支部長・副実行委員長　田中富美子

特別講演座長
田中氏

叶谷由佳氏の特別講演

「読書の秋」など秋の喩えに馴染みがあるのは何故なのでしょう。四季の歌を聴いては、若い心で「どの季節がすき」と語り合ったものです。秋は知識を吸収するに相応（ふさわ）しい季節なのでしょう。学会は秋と相場が決まっている（?）所以（ゆえん）でしょうか。

今年は、横浜市立大学の叶谷由佳先生に特別講演をお願いしました。看護管理を専門とされながら老年看護学教授でもいらっしゃいます。看護管理の立場で多方面と関わり、現場での「今の課題」を研究、解明の結果だそうです。看護管理の広い視野という点がいたく伝わり、現場での毎日がいかに大事であるかを知ることになりました。日常の看護をテーマに研究し、まとめることは専門職として大きなウエイトを占める事になります。

示説発表も活発に

看護協会と日精看の合同開催県は珍しいと聞きます。大事にしていきたい学会です。運営するにあたって、山形県看護協会の会場をフル活用し、参加する方の時間が有意義になるよう明日からの活力となるように工夫をしました。多くの論文投稿そして多くの方に参加していただき有難うございました。

更に今後も良い学会になるように、次回へ更に次回へ繋がるようにしていきたいものです。

平成26年度の教育計画について

常任理事　服部 秀子

山形県看護協会は、平成25年4月1日に公益社団法人となり少子高齢化社会、2025年問題等変化する社会に対応し、看護専門職として多様なヘルスニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い看護サービスを提供するための教育研修に力を入れており、平成25年度は67コース73回の研修を実施してきました。

平成26年度の教育計画の策定に当たって、県内の病院の看護管理者、教育担当者より研修に対するご意見をいただき、検討をしてきました。また、平成25年12月21日に開催した「平成26年度教育計画に関する懇談会」に27施設、4支部より52名の参加をいただき、教育計画に対する意見交換を行いました。

このような経過を踏まえ、平成26年度の教育計画は71コース、74回の研修を計画しております。新規の研修として、「現場で役立つフィジカルアセスメント」「男性看護師看護観を語る」のほか、准看護師に対する学習支援、小規模施設で働く看護職への学習支援や非会員の受講可能なコースの企画などの工夫もしております。また、庄内地区では支部と連携した研修運営の検討も行っているところです。

3月下旬には、会員の皆様のお手元に「平成26年度教育計画」をお届けできるよう取り組んでいます。平成26年度も多くの方の研修参加をお待ちしております。

第４回「医療安全やまがたフォーラム」開催

山形県看護協会事業課　遠藤 志津子

それぞれの職種からのシンポジウム

11月23日（土）13：30～16：00、第4回「医療安全やまがたフォーラム」を山形県看護協会会館において開催し、17職種、162名の参加がありました。

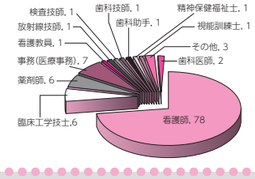
このフォーラムは、平成22年度より山形県医師会、山形県歯科医師会、山形県薬剤師会、山形県看護協会、山形県臨床工学技士会の5団体が主催で医療安全を考える機会とし、毎年持ち回りで開催しており、今年度は当協会が当番でした。

今回は、「チームで取り組む医療安全とその課題」～患者・家族―医療者間のコミュニケーションとチームSTEPPS～をテーマに立教大学の大生定義先生より基調講演をいただきました。シンポジウムでは、大滝雅博先生（医師）、小林武仁先生（歯科医師）、加藤祐太先生（薬剤師）、佐々香代子先生（看護師）、石塚后彦先生（臨床工学技士）の5人の発表がありました。参加者からは、改めてチーム医療の大切さ、コミュニケーションの大切さを再認識させられた。それぞれの職種から医療安全の取り組みや課題をきくことができたと大好評でした。

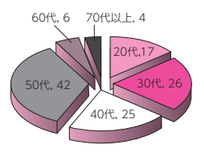
平成26年度は、山形県臨床工学技士会の当番で当協会会館で開催予定となっています。

アンケート結果160名中120名回答（75%）

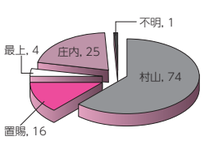
1. 職種



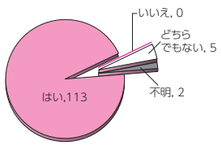
2. 年代



3. 参加地域



4. 役立つ内容



ナースセンターだより

平成25年度「訪問看護eラーニング」を活用した訪問看護師養成講習会 受講者全員が修了!!

昨年度より開催している日本訪問看護財団「訪問看護eラーニング」を活用した訪問看護師養成講習会は、今年度15名が受講しました。

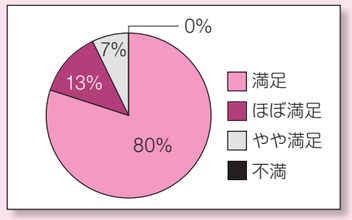
閉講式では、山形県から全員に修了証書が発行されました。

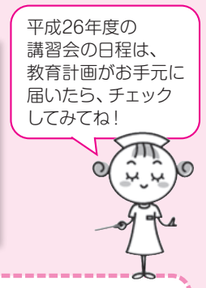
アンケートの結果から、一人での自宅学習だけではなく、情報交換会を開催し、それぞれに学んだこと、自己の課題達成、新たな課題について共有し学びを深められたことが、高い満足度にもつながったのではないかと思います。

次年度の研修も、内容を充実させ、参加しやすいプログラムを計画中です。たくさんの方の参加お待ちしております。

開催期間：平成25年6月28日～平成25年11月28日
受講者数：15名
アンケート回収数：15　回収率：100%

「eラーニング」活用した講習会の満足度





情報交換会

閉講式

受講者の声

- 初めてのパソコンでの学習で、まずeラーニングを学習していくことでパソコンが使えるようになったことが一番の収穫。テキストがあるので今後も振り返ることができよかった。
- 仕事をしながら限られた時間の中で学習をしなければならないのは大変であったが、自分のペースでできるという点ではよかったと思う。
- eラーニングの学習だけでなく、集合しての講義もプラスされているので、より理解できた。集合して学習することにより、仲間意識ができて孤独感も薄れる。また、コミュニケーションの深まりから、ヒューマンネットワークもでき良かった。

看護職は生涯現役!! 平成25年度「再就業サポートガイダンス」

～生きがいと働きがいを求めて～

平成25年11月30日、〝看護職は生涯現役!!～生きがいと働きがいを求めて～〟をテーマに、再就業サポートガイダンスを開催しました。

病院等を退職するベテラン看護職が退職後もセカンドキャリアとして、専門知識や経験を生かし、自身の生活スタイルに合わせて働けるよう支援する目的で開催しております。

今年度は、「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」、「福祉系施設での看護職の役割」の講話の他に、一般財団法人地域社会ライフプラン協会より竹内敦先生を講師にお招きし、これからの生活をより一層充実させるためのライフプランのポイントや、具体的な年金制度についてお話していただきました。

講師竹内先生の
よくわかる「ライフプラン」

参加者からは、「多くの看護職に聞いてもらいたい内容だった。」「退職を考えるときのための参考になりました。」「40歳代に聞いておきたかった。」等の感想をいただき、短い時間での講話ではありましたが、充実したガイダンスであったと思っております。

また、ハローワーク・山形県福祉人材センター・ナースセンターの担当者が、最新の求人情報についてや雇用形態のご相談に応じました。

平成26年度も実施します!!
～ご自身のライフプラン、考えてみませんか？～

退職を予定している
看護職の求人をみてみたい

看護職の皆様へ

看護職の方がこれまで培った経験・知識を、さまざまな分野で活かしてみませんか？
フルタイムで**しっかり働きたい方**、週に数回や一日数時間などの**非常勤で働きたい方**、普段は働けないけどたまには看護職として**何か役に立ちたい方**、山形県ナースセンターは、皆様のお気持ちを大切にし、**生活スタイルや体力に合わせた働き方**をご紹介いたします。
特にこの時期は**求人募集が増える時期**です！ぜひご登録を！！

ナースセンターへの登録方法 ←無料!!

インターネットから

携帯サイトから

QRコードから求人情報をチェック！

山形県看護協会HPから、登録票をダウンロードできます。郵送・FAXでも受付しています。

information ～今年も説明会を開催します!～

平成26年度 看護師等職場説明会

県内外の看護学校に在籍する県出身者を対象に、県内病院の魅力をＰＲする場を設定し、一人でも多くの看護学生に県内定着を促し、県内病院の看護職員確保対策を支援いたします。

日　　時：平成26年5月3日（土）
　　13：00～16：00
開催場所：山形テルサ　アプローズ
内　　容：①病院紹介
　　・個人面談
　　・プレゼンテーション
　　②相談コーナー
　　・山形県ナースセンター
　　・福祉人材センター

平成26年度 看護学生フレッシュ説明会

現在看護を学んでいる看護学生等を対象に、県内病院等の特色や魅力をＰＲし、早い段階から県内就職に対する意識付けを図ることにより、学生の県内定着を促進します。

日　　時：平成26年8月2日（土）
　　13：00～16：00
開催場所：山形テルサ　アプローズ
内　　容：①病院紹介
　　・個人面談　等
　　②進路指導

山形県ナースセンターにおける求職登録

職種別登録状況　　平成26年1月8日現在

職　種	保健師	助産師	看護師	准看護師	合計
登録者数	17	8	202	36	263

内訳（登録263名のうち）
未就業登録者　126人
就業中登録者　134人
有資格学生登録者　3人
無資格学生登録者　0人

山形県ナースセンター（山形県看護協会内）
e-mail:yamagata@nurse-center.net 直通☎023-646-8878

健康お役立ち情報 シリーズ1〈肩こり〉

肩こりで悩んでいる方はいらっしゃいませんか？
今回は「肩こり」の原因・症状と予防法についてご紹介します。

≪肩こりの原因≫

公益社団法人日本整形外科学会「整形外科シリーズ4〈肩こり〉」より転載

※上記以外に頸椎や肩関節疾患などで生じることもあるので、気になる時は医療機関を受診しましょう。

≪肩こりの症状とは≫

首すじ・首のつけ根から肩・背中にかけて張る・凝る・痛いと感じる状態です。筋肉が緊張し硬くなり血行が悪くなります。

≪肩こりの予防≫

★同じ姿勢を長く続けない
★入浴をし、体を温め、血行を良くし、リラックスする
★十分な睡眠と適度な休息
★ビタミンを摂取し、筋肉の疲労回復をはかる

肩こり体操

5～10分程度で手軽にできる肩こり体操をご紹介します。
みなさん試してみて下さい。

（広報委員作成）

福島県外避難者の心のケア事業としての「まちの保健室」の開催

現段階では、山形県看護協会の事務局職員を中心に、避難者とのコミュニケーション、担当者との連携構築を図りながら、月1回のペースで開催をしております。今回は、11月と12月の実施状況、そして、今後のスケジュールをお知らせします。

●山形市避難者支援交流センター

11月21日(木)
テーマ「アラフォー時代を健やかに過ごすために」
内容:①講話「40代の女性の体」
②ハンドマッサージ、健康チェック、健康相談
参加者:　8名

12月12日(木)
テーマ「雪国の冬を元気に過ごすためにパートⅠ」
内容:①講話「より健康な生活のための食事づくり」
栄養士さんのお話と試食
②ハンドマッサージ、健康チェック、健康相談
参加者:　10名

1月16日(木)
テーマ「雪国の冬を元気に過ごすためにパートⅡ」
内容:①講話「楽しくストレッチ　肩こりも腰痛も吹き飛ばそう!!」
②ハンドマッサージ、健康チェック、健康相談

2月15日(土)、3月14日(金)予定

●米沢市万世コミュニティーセンター

11月20日(水)
お茶会に参加
内容:ハンドマッサージ、健康チェック、健康相談
参加者:23名

12月18日(水)
お茶会に参加
内容:ハンドマッサージ、血管年齢測定、健康チェック、健康相談
参加者:21名

1月22日(水)、2月19日(水)
3月19日(水)予定

平成25年度会館建設積立金納入状況

納入人数	金額	満額納入者
3,038名	29,297,000円	232名

《平成25年12月31日現在》

皆様の多大なご協力ありがとうございます。　今後ともよろしくお願いします。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
皆様にとって健康な一年でありますように心より願っております。そして皆様に興味深く見て頂ける「山形いぶき」であるよう、これからも努力していきます。

山形いぶき 第124号 編集／広報出版委員会 発行／平成26年1月31日 公益社団法人山形県看護協会 〒990-2473 山形市松栄1-5-45（アルカディアソフトパーク山形内）TEL023-685-8033